

す事案上閉鎖の形に可なり。

職長等百六十五名は工場長にこれ宛書す

半談園は演説會に急務を請ふ

備後因島大改鉄工所工場の労働争議は、五月二十日臨時の労を取つて遂に因島の解決をなし得た。職長は、争議を引くと同時に、因島の資格者（職長小頭任長）併せて百六十餘名の工場長に一任して、各日一リ各工場に就業することを協定した。半談園は、この争議を引く三庄町常務報告で演説會を開き元氣を見せたが、遂に未だ争議がなくなった大改方面の労働団体代表数名は十二日歸阪した。尚上生及び三庄小學校の休校見直しは十九日も前日同様續けてゐる。

大阪朝日新聞記事（六月二日）

交渉遂に決裂 工場は自然閉鎖

大阪鉄工所因島及び三庄兩工場の労働争議は、國粋會會員森三郎氏が大阪本店の意向を齎して歸島し、既報の如き四項目に互に最後通牒的條件を提出し、職工側に向つて十八日正午までにその諾否の回答を求めたので、争議團幹部は鳩首協議を遂げたが、容目初に決定せず、既定の正午には回答するに至らず、漸く同日午後に至つて先づ第一項の「従来」の要求全部を撤回し、甚子工場長に一任することとの條件は断ると容目、三庄が容目ないといふに意見一致し、その旨森氏に回答した處、森氏及び工場側は再考を促し來つたので、職工側は再び會合最後の協議をなしたが、硬軟兩派ありて議論沸騰し、夜に入るも意見一致するに至らず、遂に夜を徹したが十九日午後三時に至り断乎として工場側の條件を弁けることに決定し、その結果を回答した。調停者森氏も工場側も斯くでは萬已むを得ず、直に大阪本店に遂に交渉決裂した旨を電報した。

下村常務談